

(3) 協議事項
入院者訪問支援事業推進会議について

背景

- 令和4年6月：精神科病院に入院する患者への訪問相談の必要性について国において検討（「地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会報告」→ 外部との面会交流が実質的に遮断される状況は（略）人権擁護の観点からも望ましくない）
- 令和4年12月：精神保健福祉法改正により「入院者訪問支援事業」が都道府県の任意事業となる
- 令和6年4月：法施行（法第35条の2（入院者訪問支援事業）、第35条の3（支援体制の整備））

1 事業目的

- 精神科病院においては、本人の意思によらず入院が必要な場合があり、なかでも、区市町村長の同意による医療保護入院者は家族等外部との面会交流が難しく、閉鎖的な環境となっていることもある。
- 外部との面会交流が実質的に遮断される状況は、本人の意思によらず入院となる者への処遇として人権擁護の観点からも望ましくない。
- ▶ **患者本人の希望に応じ、生活一般の相談や本人の体験・気持ちの傾聴に加え、必要な場合は情報提供を行う訪問支援員を派遣することで、医療機関外の者との面会交流機会を確保**

2 事業概要

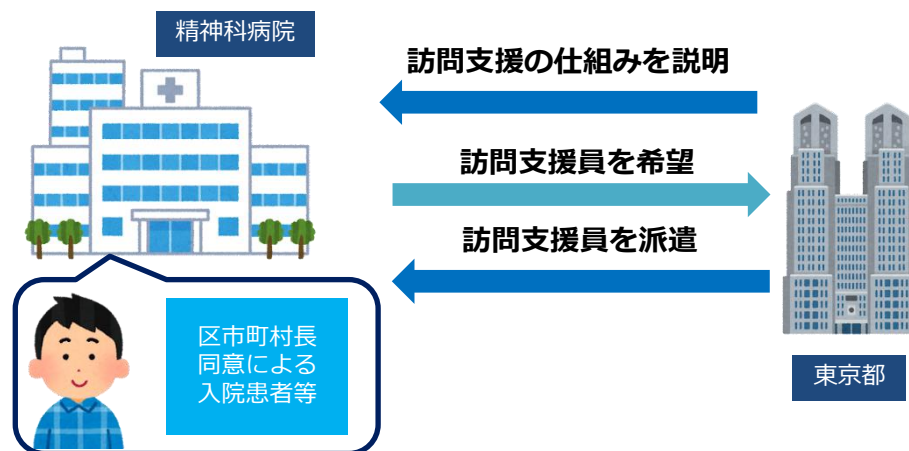
- 精神科病院を訪問し、入院者の生活に係る一般的な相談や必要な情報提供等を行う支援体制を構築

- 訪問支援対象者：都内精神科病院入院患者のうち、区市町村長同意による医療保護入院者等であって、支援を希望する者

- 実施方法：下記事業を実施（一部、国立精神・神経医療研究センターへ委託）

- ① 訪問支援員の養成研修
- ② 訪問支援員等の選任・派遣
- ③ 会議の開催

（推進会議（**地精審を活用**）の定期的な開催、実務者会議の開催）



1 訪問支援員の確保・スキルアップ

- 訪問支援員養成研修の開催（2回）
支援員を継続的に確保していくことが必要であることから引き続き、養成研修を実施
- 支援員フォローアップ研修開催【新規】（2回）
支援員の質の担保・スキル向上のため、既に支援員となった者を対象に「フォローアップ研修」を開催
※フォローアップ研修の実施に先立ち、試行的にプレ研修を実施

2 都内全精神科病院で訪問支援

- 訪問支援の実施
年度当初から都内全精神科病院を対象に訪問支援を実施

3 推進会議・実務者会議における事業検討

- 〔推進会議〕（＝地方精神保健福祉審議会）（2回）
事業の実施内容の検討や見直し・事業全体の評価を行う
- 〔実務者会議〕（3回）
個別の支援のあり方や課題等を検討

令和7年度スケジュール(予定)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
訪問支援員養成研修		9/3開催		開催予定
訪問支援員 フォローアップ研修		プレ研修 7/10開催	11/5開催予定	開催予定
訪問支援員派遣	年度当初から都全域で実施			
推進会議			10/31開催	開催予定
実務者会議	6/2開催		10/22開催	開催予定

1 訪問支援員の養成・スキルアップ

訪問支援員養成研修の開催

年度	開催日	募集方法	受講決定者数
R6	8月7日	○ 各区市町村から2名程度推薦	30名
	9月11日		34名
	12月24日	○ 精神科医療機関（※）及び当事者団体等を対象として募集	27名
R7	9月3日	○ 区市町村から推薦（任意） ○ 精神科医療機関（※）及び当事者団体等を対象として募集	36名

※訪問支援員受入れのため、事業への理解を深めていただくことを目的として募集。

【受講対象者】障害福祉サービス事業所の職員、精神科医療機関職員、ピアサポーター等。
精神障害者に対する相談経験があることを要件とする。

訪問支援員の任命

- 令和6年度：都による研修（3回実施）及び厚生労働省による研修（令和5年度）を修了した者のうちから支援員希望者を募集
→ **90名を任命**
- 令和7年度：都による研修（9/3実施）を修了した者のうちから支援員希望者を募集
→ **19名を任命** ※次回研修（令和8年2月頃開催予定）の修了者についても別途任命手続を行う予定

フォローアップ研修の開催【新規】

- プレ・フォローアップ研修 令和7年7月10日 オンライン開催（申込者32名）
内容：訪問経験者の経験談、グループワーク、質疑応答 など
- 第1回フォローアップ研修 令和7年11月5日（水）開催予定（実地）（定員：1回30名程度）

実施状況

【令和6年度】9月から訪問病院を徐々に拡大して実施

第1段階（9月～）：都立病院+意向調査により希望した病院等（20病院）

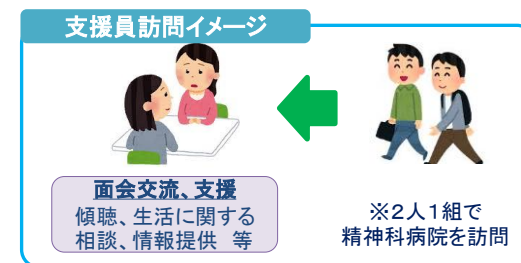
第2段階（11月～1月）：300床以上（25病院）

第3段階（2月）：都内全精神科病院（52病院）

【令和7年度】年度当初から都内全精神科病院で訪問支援を実施（98病院）

事業利用までの流れ

- 精神科病院職員から支援対象者へ事業周知
- 区市町村職員から支援対象者へ事業周知
 - ※都内全精神科病院、区市町村へ事業案内リーフレット（支援対象者向け）を配布済み
- ↓
- ご本人または病院職員（※）から事務局へ電話により訪問希望の連絡
 - ※ご本人が自身で電話をかけることが難しい場合にサポート
- ↓
- 事務局において訪問支援員・病院職員と訪問日の調整
- ↓
- 訪問支援員（2人1組）の訪問、面会交流



訪問実績（R7.10.22時点まで）

○ 訪問56件（利用者40名）

訪問月	R6.12月	R7.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	1	1	4	2	3	6	5	17	7	5	5

○ 訪問病院数：16病院

病院	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
件数	2	6	1	1	2	1	1	24	5	2	3	3	1	1	2	1

- ・全精神科病院への説明を完了したR7年2月から実績が増加し、その後は安定して申込がある。
- ・利用の多い病院に対し、あらかじめ訪問日を決めて希望者を募る取組を実施したところ、多くの申込があった。
（7/31：12件、H病院）
- ・同じ利用者や病院が繰り返し利用する傾向がある
- ・利用者の要望は「退院したい」「問題を解決してほしい」というよりも、「話を聞いてほしい」ということが多い
- ・利用者は長期入院の方、もうすぐ退院の方など様々

訪問支援の内容(主なもの)

【利用者の話の内容】

- ・自身の生い立ちや経験、家族の話、趣味、最近の出来事
- ・入院生活について
- ・訪問支援員以外(病院職員、各種相談窓口等)への相談の状況
- ・退院したい、退院後の生活への希望や不安

【訪問支援員の対応内容】

- ・利用者の話を傾聴
- ・共感や肯定的に受け止めていることを示す
- ・利用者の考えを確認する
- ・病院職員や他の支援者の役割について情報提供し、内容に応じて相談を勧める。併せて、病院職員への相談に同席することも可能であることを伝える

【事業に対する利用者の感想等】

- ・支援員が来てくれてうれしい、話ができてうれしい
- ・会話をすることで、気持ちの整理ができた
- ・また利用したい、他の患者にも利用を勧めた

推進会議（地精審を活用）

事業の実施内容の検討や見直し等を行い、関係者の合意形成を図るための会議体。実務者会議から報告を受けた事業の支援の実施状況について、報告内容を検討の上、事業全体の評価を行う。

令和6年度：2回開催（※地精審3回のうち推進会議2回）

実務者会議

個別の支援のあり方や課題等について、事業の円滑な推進と更なる充実を図る。支援の実施状況を検討し、事業目的に即した支援が提供できているか協議の上、推進会議に報告を行う。

【令和6年度】
3回開催（※令和6年度に推進会議に報告済）

【令和7年度】
3回開催予定（うち2回開催済）

令和7年度 実務者会議委員

氏名	所属
岩 下 覚	社会福祉法人 桜ヶ丘社会事業協会 桜ヶ丘記念病院
コレット 美貴	一般財団法人 精神医学研究所附属 東京武蔵野病院
相 良 真 央	一般社団法人 精神障害当事者会ポルケ
新 井 山 克 徳	医療法人財団 青溪会 駒木野病院
吉 澤 浩 一	特定非営利活動法人 江戸川区相談支援連絡協議会 江相連相談支援センター
菊 地 章 人	東京都福祉局障害者施策推進部
藤 井 千 代	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 地域精神保健・法制度研究部

令和7年度第1回実務者会議(報告)

【開催日】 令和7年6月2日(火曜日)

【議 事】

- 1 参加者紹介
- 2 令和6年度事業報告
- 3 令和7年度の予定
- 4 プレ・フォローアップ研修
- 5 第4回訪問支援員養成研修
- 6 その他

【主な意見】

■令和6年度事業報告

- ・利用者の要望は、世間話のような、話を聞いてほしいということ。
- ・長期入院、退院が近い方など、様々な利用者がいる。隔離中の方もいた。
- ・同じ利用者や病院が繰り返し利用する傾向がある。
- ・病院職員からの説明で事業を知った利用者が多い。区市町村長同意をしている区市町村に関わってもらいたい。

■訪問支援員養成研修について

- ・病院職員は受け入れのため、行政職員は勉強として参加している方がいて、グループワークがしづらい。グループ分けを工夫するとよいのでは。

■事業評価方法

- ・事業所等の地域の関係者が事業を知ること大切。
- ・再入院が減る、病院の風通しがよくなりスタッフが成長する効果もありそう。
- ・まずは利用の多い病院にヒアリングをして、その結果を踏まえてアンケートを作ってはどうか。

■その他

- ・繰り返し利用している病院などに、日程を決めて訪問することを検討。

令和7年度第2回実務者会議(報告)

【開催日】 令和7年10月22日(水曜日)

【議 事】

- 1 訪問件数
- 2 事前に日程を決めての訪問の実施
- 3 フォローアップ研修
- 4 養成研修
- 5 事業評価
- 6 その他

【主な意見】

■訪問件数

- ・利用を広げていくためには、当事者が利用したいときに知っている必要があるので、広く都民への事業周知も重要。

■フォローアップ研修

- ・病院や自治体の話を聞く機会もあるとよい。
- ・支援員は勤務外で参加するため、時間帯も検討いただきたい。

■養成研修

- ・当事者団体・家族の方が専門職と一緒にグループワークをすると遠慮する様子があった。様々な立場の人が一緒に参加すること自体は良いが、意見を言いやすくなるような工夫が必要。
- ・募集方法について、一部の人だけでやっているように見えるのはよくないので、間口を広げていくべき。職能団体からの募集も検討してはどうか。

■事業評価

- ・利用者アンケートを実施予定。答えやすいよう、シンプルな項目にする。
- ・病院向け及び支援員向けアンケートについて検討

訪問支援の内容から

【訪問支援員の対応内容】

- 利用者の生い立ちや経験、趣味等の話を傾聴し、共感や肯定的に受け止めていることを示した
- 利用者の不安や困りごとについて、利用者がどうしたいのか考えを確認した
また、内容に応じて、病院職員や他の支援者の役割について情報提供し、相談を勧めた

【利用者の声】

「来てくれてうれしい」「話ができうれしい」「会話をすることで、気持ちの整理ができた」

さらに事例を蓄積し、利用者の声を把握していく。

今後の方向性

- 他県の好事例等も参考に、事業の利用を促進する方法を検討していく
- 利用のあった病院の声を把握し、事業の効果的な実施につなげていく